

件 名 : 第1回 安倍川水環境検討委員会  
日 時 : 平成17年5月16日(月) 13:30~15:40  
場 所 : パルシェ7階 第1,2会議室

## 議 事 要 旨

- (1) 設立趣旨(案)、規約(案)、公開方法(案)について、特に異議なく、事務局(案)了承される。
- (2) 委員長は互選により「静岡大学 土名誉教授」、副委員長は委員長の指名により「静岡大学 土屋智教授」が決まる。

### (3) 現状と課題について

狩野委員 : 「私の認識としては、S57年8月の集中豪雨による土砂災害の影響が今頃になって現れて来ているのではないかと(S57災害がこの百年で最も森林に被害を及ぼしたと言われている)それと、木材価格の低迷による林業経営の悪化、近年の大河内砂防堰堤堆砂敷の河床上昇などが濁水と関連しているのではないかと」

板井委員 : 「安倍川本川は、「三河内川」、「大谷川」のどちらか？」  
事務局 : 「安倍川は大谷嶺が源流部であり、東側の八鉦嶺沢から三河内川に流れ出る方が安倍川本川、大谷川を支川と河川法上定まっている。また、三河内川と大谷川の合流後を安倍川となっている。」

松尾委員 : 「H11以降、pHが変化(曙橋の高値安定化)してきているのが気に掛かる。経年的に同じ地点で、同じ測定方法で調査してきたのか? 濁水の要因を探求する意味でも、流量と濁度・SSとの相関関係の整理が必要。また、河床材料が大きく変化(H10 H16)しているが、その間に何があったのか? 外的要因を時系列に整理する必要がある。」

事務局 : 「定期水質調査の測定位置は安倍川特有の澇筋の変動で、横断上のズレはあるものの、基本的な位置や測定方法に変更はなく経年的に同じ調査手法である。流量と濁度・SSとの関係については後日

整理する。河床材料が大きく変化したH10とH16の間には、大河内砂防堰堤の水叩きの災害復旧工事（H12）と梅ヶ島大橋の新築工事があった程度と認識している。また、H10以前ではあるが、H6まで大河内砂防堰堤上流区間で砂利採取が行われていた。」

土屋委員：「崩壊地調査はS55以前も実施していないか？ 空中写真撮影成果があれば、もう少し古い時代からの崩壊地推移が見たい。戦後の方が現在より山が荒れており白濁化していたのではないか？」

事務局：「S55以前も崩壊地調査は実施していると思われるが、成果の精度に問題がある可能性があるので、現時点の技術で再整理する必要がある。昔から白濁化していたというような話は聞いたことはなく、逆に地元の古老からは、昔は尺アユがいたとか飛び込みをして遊んだ等と。白濁化していれば、その様なことは考えにくい。」

土屋委員：「流出土砂量について毎年調査は実施していないか？」

事務局：「現在、国総研等と協同で浮遊砂・送流砂調査などを調査・研究段階である。」

板井委員：「安倍川を30年くらい見てきた中で、S55頃は安倍川は砂礫が多く泥質はあまり無かった。ところが、近年3、4年は孫砂島堰堤上流部で清流にも関わらず水生昆虫がいなく泥が各所に堆積している状況。これは濁りによる影響が出ているものと思われる。」

土委員：「シルト分が多く河川の河床に堆積していると言うことは、地形・地層の関係で山が大きく荒れて変化した可能性がある。もう少し、過去からの崩壊の推移を探求する必要がある。」

本間委員：「森林整備は周辺も同様に行なわれている可能性が高い。支流からの濁水が見られず本流のみの局地的な濁水発生であるなら、単純に森林が問題とは考えにくいがどうか？」

事務局：「昨年の現地調査を踏まえると、平常時、安倍川左支川は枯れているか清流、右支川も濁りはない。」

土・土屋委員：「大井川でも同じような現象（白濁化）は出ているのか？ また、全国でも同様な現象は？」

事務局：「大井川はダム貯水池の影響により白濁化しており、安倍川の白濁

化とは性質が異なる。」

松尾委員：「豪雨後、ダム湖貯水池下流で白濁化する現象はよく見掛ける現象であるが、1年ぐらいで清流化するのが一般的であり、安倍川のような経年的に、しかも一定期間だけが白濁化するようなことは聞いたことがない。」

小合委員：「アユ等の生態以外に、白濁が進んだことで市民生活に大きく影響したということはあるのか？」

事務局：「静岡市民は生活用水の大半を安倍川からの伏流水に依存しているが、白濁化によって影響が出たとは聞いていない。それ以外にも聞いていない。」

#### (4) H17調査計画(案)について

土屋委員：「20Kから30K辺りの河床表層部の微細粒子の堆積構造をもう少し詳細に把握する必要があるのでは？例えば、大河内砂防堰堤下流で3地点程度のテストピットを掘削し、詳しい堆積構造が把握できないか？」

板井委員：「白濁化による生態系への影響を調査して欲しい。イメージとしては、本川と主要支川を縦断的に。対象種は底生動物が良い。」

事務局：「調査のやり方等については、別途、相談させて頂きたい」

#### (5) 今後(当面)の予定について

特に異議なし。